

ニューノーマル時代のITの活用に関する論点整理

令和2年6月13日

ニューノーマル時代のITの活用に関する懇談会事務局

テーマ別論点整理①

ニューノーマル時代のライフスタイルはどう変化するか

- ・ 生活、仕事、学び、遊びの融合が進んでいくのではないかと（リモート勤務における職住の融合、ワーケーション、事業拠点、大学キャンパスなどの地方移転、セカンドライフ、コミュニティ）
- ・ 距離の概念が大きく変わるのではないかと（物理的距離と心理的、機能的距離、上司、友人、顧客との距離）
- ・ 移動のあり方が大きく変わるのではないかと（地方移住と航空通勤、友人等の遠方からの訪問、滞在型観光）

【委員コメント】

- ・ 生活空間の家庭がテレワークやオンライン教育の現場に。個人宅内での家族の配置、Wi-Fi の特性、集合住宅のインターネット環境、そして、障害や年齢、言語を含むアクセシビリティの観点からの、検証・測定やそれに基づく「新常態家庭インターネット・ガイドライン」の策定が急務。
- ・ オンライン消費・遠隔サービスの拡大がより進展していくのではないかと。その一方で、例えばリアル店舗での買物等は、ライブや本物、その場でしかできない体験として、引き続き根強いニーズがあるのではないかと。
- ・ リモートワークや在宅勤務が加速。これにより、仕事と日常生活の時間の融通が容易になり、家事・育児等との両立が大きく前進し、また、長期休暇も取得しやすくなる（休暇中に仕事のスポット対応が可能）。
- ・ 健康維持・QOL向上を目的とした外出・交流の増加（リモートの反動で外出や対面のニーズが拡大するのではないかと）
- ・ 日常生活やビジネスにおいて、不必要な移動はしなくなるのではないかと。
ex.買物・用事での外出の減少し、宅配のニーズやネット通信が増加、通勤や出張等の減少しWEB会議等が増加
- ・ 移動の中身・内容が多様化するのではないかと。
ex.生活拠点が一部は郊外・地方へシフト。自宅周辺での日々の移動が増加。
- ・ 移動のピークの平準化によって混雑の無い移動や休暇が可能に。
ex.時差通勤の促進、長期休暇の分散、混雑地域・混雑期を外した休暇ニーズの増加
- ・ 移動に求める質が変わるのではないかと。
ex.快適な移動環境（密の回避）に対するニーズや環境負荷に配慮した移動需要が増加
- ・ モビリティサービスについて、MaaSの導入により、様々な交通手段等の案内（検索・予約・決済等）はもとより、目的地（SCなど）のリアルタイムな混雑状況の可視化や、それに基づく需給調整が可能に。

テーマ別論点整理①

ニューノーマル時代のライフスタイルはどう変化するか

- ・労働市場の柔軟化、STEAM教育の普及を促進すべき。
- ・次の分野について、以下の取組が必要ではないか。
 - 企業：情報リテラシーの引き上げ、一括採用制の見直し、データの利活用、ダイバーシティ・インクルージョンの推進、テレワークの推進、クラウド情報共有の推進、在宅社員の健康・メンタル対策
 - 医療：オンライン診療の普及拡大、レセプトの完全オンライン化、OTC医薬品のネット販売推進、電子カルテの利用拡大、健康保険証とマイナンバーカードの融合促進
 - 教育：遠隔授業・Moocの普及促進、フェアユースの導入、クラウドの活用、教職員の情報リテラシー引き上げ、GIGAスクールの推進
 - 農業：ドローンの活用、AIの活用、土地利用の集約化、産直の推進
 - 物流：カーシェアの拡大、自動運転技術の活用、ドローンの利用拡大、アクティブRFIDの利用拡大、準天頂衛星の利用

テーマ別論点整理②

ニューノーマル時代の社会の仕組みはどう変化するか

- ・ 都市の概念が変わるのではないか（巨大都市と地方都市、偶発的イノベーションをけん引する巨大都市、新たなライフスタイルの中心となる地方都市）
- ・ グローバル化とローカリゼーションが加速するのではないか（世界との心理的距離の縮小、コミュニティの重要性の増大）
- ・ サービス生産・消費が大きく変わるのではないか（バーチャルサービスと代替関係（substitutional）にあるリアルサービス、補完関係（Complementary）にあるリアルサービス、文化芸術、音楽、劇場、教育、医療、飲食、観光の代替性と補完性、五感に訴えるサービスの代替性と補完性等、モビリティサービスの変化、地域金融サービスの変化）
- ・ 競争環境が大きく変わるのではないか（空間に捉われないサービス選択、教室や診療室市場開放、スーパー非常勤講師、スーパー臨床医）
- ・ 新たな格差を生みださない、国民全員がIT技術の恩恵を享受できる社会基盤整備がより重要になるのではないか（行政サービスのIT化、迅速的確な生活者支援、情報弱者対策、デジタル本人確認を通じた個別行政サービス）

【委員コメント】

- ・ 大都市集中から分散化へとシフトし、人材、教育、医療等の都市集中による機能不全を解消するICTによる地方戦略が必要ではないか。
- ・ 地球環境の持続性、人の生命への尊厳、グローバルインターネットへの責任をメッセージとして、倫理、文化、平和、おもてなしの価値観を意識した、国際機関や外交関係を利用した我が国デジタル政策の世界への貢献が必要ではないか。
- ・ リアルとオンラインの関係は、提供する商品やサービスによって、代替になるものもあれば、補完関係や相乗関係になるもの、あるいは引き続きリアルが強く志向されるものに分かれるのではないか。
- ・ 文化芸術・スポーツ・観光など、ライブや本物、その場でしか体験できない感動を提供できるものは、引き続きリアルサービスが高く評価されるのではないか。
- ・ 音楽、演劇、スポーツ、エンターテインメントなど、人の集う場所におけるICTによるチケット販売や感染トレーシングと連携した耐感染症機能の強化が必要ではないか。

テーマ別論点整理②

ニューノーマル時代の社会の仕組みはどう変化するか

- ・ 社会経済活動が、新聞、雑誌、広告等多くの人に届けられるモノの提供することから、データで一人ひとりを捉えて「体験」を共創していく時代になるのではないか。
- ・ デジタル・ガバメントの一層の推進。対面・押印・原本の原則を見直しが必要ではないか。
- ・ 行政機関におけるテレワークを可能にするすべての環境整備、オープンデータの健康・医療軸での整備が必要ではないか。
- ・ マイナンバーを積極的に活用するため、目的外利用の範囲を広げる方向での法改正が必要ではないか。
- ・ 比較的発展している農業に加え、水産業と林業の物流と労働のデータと他産業との合成が必要ではないか。
- ・ 公共空間のICT 環境整備を進める。具体的には、避難所、テレワーク、イベント、などの持続可能な活動空間であるためのすべての公共空間のインターネット環境の基準作成と整備を進めるべきではないか。
- ・ 政府行動、企業行動、労働市場行動、社会行動において、分野ごとに密集型ネットワークを構築するとともに、そのネットワーク間の連携により社会課題の解決につなげるべき。
- ・ 次の分野について、以下の取組が必要ではないか。
 - 政府：マイナンバーの利用推進、プライバシー保護、クラウドの利用推進、デジタルデバイド対策、電子政府の推進、ネット選挙の推進、生産性指標の見直し、IT・セキュリティ人材の育成
 - 個人：セキュリティ対策、家庭内の情報インフラ整備、プライバシー保護、マイナンバーカードの取得、在宅勤務時の健康管理、社会的距離
 - 金融：ATM/店舗網の見直し、仮想通貨の活用、モバイル端末の利用促進、クラウドファンディングの活用、フィンテックサービスの拡大
 - 観光：公衆無線LAN・5Gの普及拡大、カーシェア・バイクシェアの拡大

テーマ別論点整理③

ニューノーマル時代のIT技術はどう変化するか

- ・ 新技術の開発と実装がさらに加速するのではないか（5G、AI、ロボット、AR/VR、アバター、ブロックチェーン、量子コンピューティング、Beyond5G）。
- ・ デジタル社会の「安心」がより求められるのではないか（データ倫理、プライバシー、トラスト、デジタル格差、公正競争、弱者対応、見える化）。
- ・ IT技術の安全性がより求められるのではないか（ロボット、AIの安全性、データ利活用の信頼性）

【委員コメント】

- ・ インターフェースに可能な限り人間的な部分を持たせることで、人に負荷をかけないロボット技術の活用が進められるのではないか。
- ・ 2000年体制からの光ファイバーインフラや無線インフラの網羅的整備をするための新たな政策の推進が必要ではないか。 民間主導、官サポートによる社会基盤としてのデータアーキテクチャの推進。海底ケーブルとデータセンターによる日本と世界の安全な関係の構築が必要ではないか。
- ・ 新しい人に寄り添う情報技術の研究・開発を進めていく必要があるのではないか。
- ・ マイナンバーを統計、行政データ、課税情報、医療や介護DB、学力調査などとリンク（照合）し、「名寄せ」を容易にして、政策立案や分析に生かすべき。 個人にデジタルIDという議論もあるようだが、結局マイナンバーと同じでプライバシーの問題が指摘されて普及しないのではないか。
- ・ IT技術を駆使して現場管理を高度化した場合、現行の建設業法では、公共性のある重要な建設工事は「専任」と定められており、効率化・合理化の効果が限定的となるので条件緩和が必要ではないか。
- ・ ドローンに関し、機器登録や操縦資格、飛行計画と実績、また関連法案が建設場所により、複数重なるなど単なる規制強化ではなく、関連法案の整理が必要ではないか。
- ・ 新型コロナウイルス感染拡大により、コミュニティ拠点も閉鎖、夏祭り等の活動も中止となる中で、密にならず、かつ、住民の孤立を防ぐべく、安否確認や住民間コミュニケーションをとれるように、地域のITコミュニケーションインフラの構築が重要であり、高齢者でも使いやすいシステム導入（例えば全員がLINE使える、など）への助成が必要ではないか。

テーマ別論点整理③

ニューノーマル時代のIT技術はどう変化するか

- ・次の分野について、以下の取組が必要ではないか。
 - 建設：AR/VRの活用、ドローンの活用、AIの活用・準天頂衛星の利用
 - 製造：3Dプリンティングの利用拡大、サプライチェーンの見直し、スマートファクトリーの推進、デジタルツインの活用
 - 技術：5G・ローカル5G・Wi-Fi 6の普及整備、サイバーセキュリティ対策、情報システムのオープン化、周波数の共用利用促進、再生エネルギーの利用拡大、量子コンピューターの開発